

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	第4回姫路市立高等学校在り方審議会
2 開催日時	令和4年1月13日（木曜日） 14時30分～16時05分
3 開催場所	姫路市役所北別館 3階 講義室
4 出席者	（出席者）姫路市立高等学校在り方審議会委員14名 （事務局）教育長、教育次長、教育総務部長、教育企画室長、学校教育部長、 総務課長、学校施設課長、教育企画室主幹、学校指導課長、 人権教育課長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人4名
6 次第	1 開 会 2 挨 拶 3 報 告 今後の審議スケジュールについて 4 議 事 答申案について 5 連絡事項 6 閉 会
7 会議の要点内容	以下のとおり

事務局	<p>1 開会</p> <p>第4回姫路市立高等学校在り方審議会を開会する。</p>
教育長	<p>2 挨拶</p> <p>(教育長挨拶)</p> <p>本日は、姫路市立高等学校在り方審議会に御出席いただき誠に感謝している。</p> <p>平素は、本市の教育行政の推進に多大な御支援をいただいていることを、改めて感謝申し上げます。</p> <p>さて、前回の審議会においては、「アンケートの調査結果」の報告について御協議をいただいた。その中で印象的なことは、高等学校に入学して満足している理由に対して在校生、その保護者のいずれも「学校や生徒の雰囲気が良いから」という回答が最も多く、市立高等学校の満足度が高いということである。これからの市立高等学校の在り方として、このような文化を継承していくことが重要であるという御意見をいただいた。また、「市立高等学校の目指す方向性とこれまでの取組について」に関しては、市立高等学校の高等学校教育が今後どうあるべきか、市立高等学校で育成したい資質や能力について、御協議いただいたところである。</p> <p>本日は、前回までの審議会で、委員の皆様から頂いた御意見を踏まえながら、これからの市立高等学校の在り方について、とりまとめに向け、更に議論を深め御協議いただきたいと考えている。</p> <p>委員の皆様においては、本日の議題について、それぞれのお立場から、様々な御意見や御提案をいただきながら活発な審議をお願いできればと考えている。よろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>会議成立報告</p>
会長	<p>(公開可否の決定)</p> <p>本日の審議会は、異議がなければ公開とするが良いか。(異議なし)</p> <p>異議なしと認めて公開とする。</p>
会長	<p>(第3回会議録の確認)</p> <p>第3回審議会の会議録について修正等の意見はあるか。</p>

事務局	8ページの1番下の委員の御発言中、6行目に脱字箇所があった。正しくは「確保していくことが必要とを感じる」である。
会長	他に第3回審議会の会議録について修正等の意見はあるか。(意見なし) 修正の意見を反映させたものを会議録として決定する。
会長	3 報告 今後の審議スケジュールについて 事務局からの説明を求める。
事務局	資料1「審議スケジュール(予定)」を用いて説明
会長	審議スケジュールについて、意見はあるか。(意見なし)
会長	4 議事 答申案について 事務局からの説明を求める。
事務局	資料2「これからの姫路市立高等学校の在り方について(答申案)」を用いて説明
会長	内容について、委員の皆様から忌憚のない御意見、御質問等をいただきたい。
事務局	本日御欠席の委員から、事前に御意見をいただいているので、報告する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちの将来なりたい職業像も変わってきており、起業へのニーズも高まってきていると聞く。これからの高等学校では、自らが時代を作っていくきっかけや基本となることを教えていくなど、時代の変化に目を向け、時代に即応した教育ができるように取り組んでほしい。 ・ 現在の市立高等学校それぞれの良いところを包括して継承するとともに、このことを学ぶために市立を選択するといった、学校独自の特色を打ち出してもらいた

	<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の進路指導については中学校の教諭が行うことになるので、答申案のとおり再編するのであれば、適宜、中学校へ情報提供を実施してほしい。 ・ 再編後、1校になると、ますます県立との人事交流が必要となる。ぜひとも県立高等学校との活発な人事交流ができるよう、県との調整を進めてほしい。 <p>との御意見をいただいている。</p>
委員	<p>現在、市立高等学校は1学年240名、3校で720名ぐらいの生徒が在籍しており、倍率についても定員を上回っている中で、1校に再編となると、10学級で400名としても生徒の選択肢が非常に狭まってくる。答申案にも書いてあるが、県立高等学校との調整が必要ということはまさにその通りだと思う。今後、市立高等学校を希望する生徒が県立高等学校で受け入れることができるように、あるいは市立高等学校の一部を県立高等学校に移すようなことも含めて県と相談されるのだろうと思うが、そうでなければ、伝統があり、親しみやすい学校に期待している生徒が、一方的に選択肢を狭められるということになってしまう。</p> <p>ただ、6ページに「市立高等学校を1校にすることを前提として」とあるが、1校が結論というところからスタートするのが良いのだろうか。結果的に効率を考えたら1校や2校に集約化ということは十分可能性としては高いとは思っているが、もう少し新しい学校のイメージを明確にしないと、なかなか1校でいきましょうという方向には向かいにくいのではないか。</p>
事務局	<p>前回までの審議の中で、1校にすることを前提に積極的な方策をとってもらいたいという趣旨の話があった。委員の方にそのようにおっしゃっていただき、我々としても積極的に前に進むための再編として重く受け止めているところである。新しい学校像についても、その始まりになるようなものを御意見としていただければと考えている。</p>
会長	<p>審議会の役割だが、改めて諮問を見ると、市立高等学校づくりを推進するための基本的な方向性を審議するとある。前提とされていたのは、基本的な方向性がある、それを基に具体的な学校像を作るということであり、8ページにあるように、具体的な学校像は今後検討していくと書かれている。そのための前提になる基本的な方向と</p>

して、1校にすることや、1学年10学級程度の規模、学校施設の整備、校風の継承などが述べられている。そういう点で新しい学校像を作るための枠は示されているということにはなると思う。

それともう1点、確かにこれまで市立高等学校は3校のため定員規模も大きく、かなりの生徒を受け入れてきている。そのため1校にすると、少なくとも当面は受け入れられる数が減ってくることはその通りだと思う。ただ将来的には、さらに生徒数が減少するということもあるので、希望する生徒はある程度多くの割合で受け入れられるようになる。また、アンケートに出ているように、保護者や生徒は県立・市立ということは少なくとも入学時点ではそれほど気にしているわけではない。つまり、県立も市立もそれぞれ特色を作って、生徒や保護者に選択肢を提供することが重要であるということだ。

県立にないような市立の特色をより発揮するためには、私の考えだが、例えば1学年10学級は、県立が6～8学級を志向する中でかなり大きな特色になると思う。さらに、専門学科等については時代のニーズに合った内容に見直すと書いてあるし、当然施設が新しくなることも十分読み取れる。そのうえ、令和の時代にふさわしい施設設備にするということも書いてあるので、大きな選択肢を示すことにはなるだろう。

ただ、人気が出ると市外からもたくさん生徒が来る可能性もあり、そうすると、市外の生徒が増えて市内の生徒が入れなくなるという非常に矛盾した現象が起こり得るため、その点は気をつけてやらないといけないと思う。

委員

5ページの「これからの市立高等学校の考え方」のところで、「本市における高等学校の教育環境を第4学区全体で考える必要がある」とあるが、まさにその通りだと思う。ほとんどの中学生が高校進学をしている中で、十分県と協議して、全体の受け皿を確保していただきたいと思っているが、市立高等学校を集約すること自体に反対しているわけではない。ただ、その時に市立3校だけを考えるのではなく、県立や私立であるとか、従来から意見がある小中学校や大学との連携であるとか、全体を考えていただきたい。

また、今後できる新しい高等学校の専門学科やコース、普通科の割合はどのようにし、どのような特徴を出すかというイメージがもう少し湧いてくると、1校で良いのではということになる。最終的に議論を進めていった時に、15億の予算の中で集中的に1校にすることや、老朽化した施設を新設することについては、私もそうだ

ろうと思っている。結果的に1校に集中していくという結論自体に反対しているわけではないが、そこに至るまでの部分で配慮すべきところは十分配慮しておかないといけない。最初に1校ありきとするのではなく、十分検討した中で最終的にそういう選択肢があるということを残しておかないといけないのでは、ということを感じている。

委員

文章の表現について、「1校を前提として」ではなく、「1校も視野に」や「1校も含め」などに変えた方が良いのではないかと。

また、以前も申し上げたが、統合するに当たっては、積極的に新しい高等学校を作っていくということを前面に出してはどうかと思っている。1ページの「(2) 新たな課題」の少子化の進行や社会の変化、姫路市の財政状況については、課題がどれも消極的な感じがする。教育は専門ではないが、現在、リベラルアーツ教育を行っているある高等学校に、神戸新聞社として1年間授業を提供しており、政治への参画も含め時事問題などを教えている。そのような教育の質が変わっているということも項立てして、高校教育の在り方が課題になっているというようなことをもう少し触れた方が良いのではないかと。もちろん目指す方向性やこれからの市立高等学校の考え方の中でその辺は書かれているが、このような章立てを行うのであれば、新たな課題のところでも、もう少し教育の課題をきちんと書いた方が良いのではないかと。

会長

4ページの「市立高等学校で育成したい資質や能力」はもっと書くことができれば書いたほうが良い。そのために例えばこのようなカリキュラムや学科が必要ということまで書くと、前向きで新しい学校ができるというイメージはより強くなると思う。

また、「1校を前提に」という表現については、財政面や施設の老朽化が目前に迫っているため、そこに資源を集中しようということだろうと思うが、少し表現を考慮していただければと思う。

委員

4ページの「市立高等学校で育成したい資質や能力」について「人格形成」や「調整力」など、「育む」という述語に繋がらない単語があるように思う。

また、「文化理解」の文化については、芸術文化あるいは異文化を示しているのか分からないので、もう少し明確に文章で書いた方が分かりやすいと思う。

委員

答申案の方向性はこれで良いと思う。ただ、答申案を色々な方に見てもらった時に、納得され、そして応援しようという形にしなければならないため、どこを強めるかどこを弱めるかということが非常に大事になる。先ほど委員もおっしゃったように、1校前提という言葉が強いのであるならば、1校も視野に入れてとしたり、イメージが湧かないということであれば、例えば6ページのICTの活用や小中連携などに加え、先ほど委員がおっしゃったリベラルアーツや、市民との関係性を保つならば市民性育成などを入れたほうが良いと思う。

また、4ページの「市立高等学校で育成したい資質や能力」については、スクールミッションとはいかなくても、未来的志向の中で、このような生徒を育てたいというものがあればあるほど良いと思う。

委員

校長としては3校残してほしいという気持ちもあるが、将来的なことを考えると統合も仕方ないと思う。ただ、この答申案は消極的な統合というイメージが読み取られるので、統合による発展的な内容をもっと盛り込んでもらえたら、OBにも納得していただける。どこかを踏襲しながら1校にするのではなく、本当に新しい学校を作るというイメージで、他にないような目新しい専門学科を作ったり、単位制を取り入れるなど、期待が持てるような内容にしてもらいたいと思う。

委員

1校にするという理由の中で、社会情勢のことが多く書いてあると思うが、一方で、この3校が市民から親しまれてきた学校という文脈もある。そのため、今までは市立3校で切磋琢磨して力を伸ばしてきたが、これからは、兵庫県に限らず日本中の高等学校と、ましてや海外の高等学校と切磋琢磨していく必要があることから、3校の力を1つにまとめて、突き抜けた学校を作る必要があるといった書きぶりにすることで、初めて1つの学校を視野にというものが出てくると思う。世界の人間を相手に高校生が成長していかなければならないというような、未来志向的な考え方がどこかに出てくれば良いのではと思う。

委員

数年前から生徒会が市立高等学校生徒会サミットを行っている。当初は姫路に来てもらっていたが、コロナの関係で昨年からはオンラインになった。今年は本校が担当と

なり、全国の市立高等学校に呼びかけをしていきながら、結果的に 26 校と交流し、体育祭などをどのように行うかという話し合いをした。その際、埼玉県の川口市立高等学校の陸上トラックや人工芝の運動場を紹介していただいた時、生徒皆がすごいと驚いていた。

私自身、以前統合についての話をさせていただいたが、統合するのであれば、施設を充実させてほしいという思いがあった。神戸市の取組を紹介するが、葺合高等学校は国際理解教育、六甲アイランド高等学校は科学技術に関する先進的な取組を行っており、施設設備も充実している。この間、葺合高等学校の施設を見せていただいたが、ICT の環境を充実させていたり、少人数での話し合いやグループワークが行えるような、レイアウトを自在にカスタマイズできるフリースペース等を整備されていた。施設の老朽化が進んでいる状況の中で、新たなものを作り上げていくのであれば、1 校に集約する方がより充実したものができ上がると思う。

先ほど申し上げた学校以外でも、それぞれがその地域に応じて特色あるものを作り上げていこうとしている。姫路市も魅力ある市なので、色々な題材を持ち合わせていると思う。これまでの実践事例も視点に置きながら、「育成したい資質や能力」をもう少し明確に文章化していただきたい。姫路市はこのような生徒を育てたいということが皆さんへのメッセージとなり、市としての方向性がしっかり伝わっていくのではないかと思う。そうすると、1 校に統合し、施設の充実を図るという方向性が必要なのだろうという理解にもつながっていくと思う。

会長

答申案にも書かれているが、3校はそれぞれ特色があり、人気がある。特に3人の校長先生方は一番よく3校について知っておられるので、新しい学校を作るに際し、今までの実績を基に、このような学校を作っていきたいということを言われた方が良く思う。

委員

市立高等学校を3校に分散するより1校にした方が良くということはその通りだと思ふ。

また、産業界からすると、地元が要望する人材を市立高等学校で育ててもらいたい。今地元企業が要望している人材は、今後の社会の展開を考えて、デジタル化に強い人材、あるいは次世代産業として観光産業に力を入れていくとすると観光に強い人材などだが、10年の期間で考えた場合にニーズは変わっていくと思う。現在必要とされて

	<p>いるものが10年後も必要かは分からない。そのため、教員の問題もあるが、10年後、20年後とその都度地元が求める人材に応じて、専門学科を臨機応変に変えていくことができれば良いと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>今おっしゃったようなことは、今後の計画ではっきりさせなければならないと思うが、この答申の段階でどこまで出すのかということは、また検討いただけたらと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>抽象的なことになるかもしれないが、新しいものを作る時には、姫路市民が支持し、愛し、誇りが持てるような視点から、どのような学校や施設、カリキュラムを作っていくかを考えていただけたらと思う。</p> <p>4ページの「市立高等学校で目指す方向性」については、全て真っ当なことが書いてあるが、ついていくことができない生徒もいるという視点があれば良いと思った。例えば、柔軟性や優しさみたいところが文章で表現されたら良いと感じた。</p>
<p>副会長</p>	<p>一読して、1校ありきの印象が残る。2校や3校ではなぜ駄目なのかをもう少しはっきりさせたほうが良いと思う。最初に委員長から、1校にすることの意味や、10学級規模にする意味について発言があったが、10学級規模にすると、どのような活動ができるのかを具体的に先生方から出していただけると良いと思う。教員の数がこれだけ増えると、このような活動ができ、6～8学級の県立高等学校とは違った特色ができるというように、教員や財源を集中することによって、どのような学校づくりができるのかということが、もう少し具体的に分かると、なぜ1校にしないといけなかがイメージしやすくなる。</p> <p>4ページの「市立高等学校で育成したい資質や能力」については、汎用的なものが示されているので、市立高等学校であることの優位性を持ちつつ、どういうスクール・ミッションを掲げるのかということが、もう少し具体的にできれば良いと思った。</p> <p>また、3ページの「姫路市の財政状況」を読むと、優先せざるを得ない課題がたくさんあり、教育費にお金が出せないという印象を受ける。決してそういうわけではなく、効果的なお金の使い方をする必要があるということだと思うので、表現を工夫した方が良いと思う。</p>

委員

答申案を見て一番目を引いたところは、「市立高等学校を1校にすることを前提」という部分である。あえてこのように言い切ることで、目指す方向が明確化していると感じられた。

行政にいた10年ほど前、小中一貫校の視察で京都に行った時に、その施設が素晴らしく、子供たちがとても生き生きと教育を受けている様子を肌で感じる事ができた。未来志向でこのような素晴らしい学校ができるという姿を明確にすることによって、1校にする意義が大きく謳われていくように思うので、それぞれの3つの学科・コースをこのように生かしていくといった具体的なビジョンが明確に出るようになると、より答申として素晴らしくなると思う。

委員

「1校にすることを前提」という表現を変えていただきたい。市立3校とも人気があるが1校にせざるを得ないので、1校にする限りは、これだけ素晴らしい学校になるということをお願いしたい。各学校には関係者がたくさんおられるので、交通利便性が良く、突き抜けた学校ができるような、その方たちが納得するような場所に、新しい学校を作っていただきたいと思っている。

委員

5ページの3段落目「地域住民や企業とつながり、まちづくりについて主体的に考える経験を積むことが肝要であり、このことは、市民力の向上と本市の発展に寄与するものである」という部分は、アドミッション・ポリシーにおいて「市民力の向上と本市の発展に寄与できる人」という形で、住民との関わりが中心になることを求める書きぶりになっていくと思う。また、7ページの1行目「本市が求める学びをしっかりと実現することができる教育システムを構築する」という部分は、カリキュラム・ポリシーになってくると思う。この部分が4ページの「市立高等学校で育成したい資質や能力」と重なってくると思うが、ここが先ほどから指摘があるように汎用的な力のみになっているので、市民力や姫路市の発展につながるよううまく構成していけるだろうか。本当は実施計画の中で書かれることだと思うが、ある程度のヒントに感じさせるようなものがこの答申には必要だと思う。そして、6ページの下から6行目「本市の豊かな人づくり、まちづくりの推進役としての役割を期待したい」の部分には、グラデュエーション・ポリシーのようなものを書いてある。

これらを分かりやすく説明すると、地域住民や社会の人と関わりながら、まちづくりの推進役として活躍してほしいという流れになってくると思うが、もう少し学校の

	<p>特色について言及していかないと、1校にする理由や、審議会がどういう学校づくりを求めているのかということが見えづらい。Society5.0と言われる新しい社会に対応できる力や、姫路市を世界の代表的なまちにできるような資質は何なのかということを示し、そのような人づくりをしていくということも考えていただけたらありがたい。</p>
委員	<p>市立高等学校であるので、姫路市に貢献するというように「市」が前面に出てきているが、日本各地の大学に行き世界で活躍する生徒もいるので、ローカルからグローバルというように姫路市や日本、さらには世界にも貢献という言葉も入れていただけたらと思う。</p>
委員	<p>答申案を読んだが、魅力のあるものができるのではないかと思った。1校になるのであれば、発展的な統合を行い、行きたい、あるいは行かせたい学校にさせていただけたらと思う。</p> <p>一方で、これまでも受験制度や学区の変更があった時は、良い面とそうでない面があった。全ての方が良かったと思う取組なら良いが、それはなかなか難しいことだと思う。1校にして、魅力のある学校を作ることとはとても良いが、保護者の立場からは受験の受け皿を確保するなど、子供の負担にならないようにしていただけたらと思う。</p>
会長	<p>現状、普通科はどこも学力による輪切りになっている。しかし、私自身は、新校については幅広い生徒が入るといった、高校入試の筆記試験だけで測るのではなく、多様な能力を持った生徒がいる学校になるのかなと思っている。そういうことも今後考慮をしていただければと思う。</p>
委員	<p>4ページの「市立高等学校で育成したい資質や能力」については、せっかく1校にするという方向で話が進められているのであれば、もっと具体的な表現が必要だろうと思う。3校とも多くの卒業生の方がいらっしゃるの、その方々が読んだ時に、これであれば応援しようと思えるものであってほしい。</p> <p>他の委員の意見にもあるが、子供たちの将来なりたい職業像や企業が求める人材の変化をしっかりと捉えて柔軟に対応してもらえるような学校づくりが基本にあってほ</p>

しいと思う。

保護者の立場からは、進路選択に当たり、高等学校の情報はインターネットで見ることではあるが、生の声がなかなか聞こえてこないもので、情報提供をしっかりと行い、保護者や生徒が置き去りにされないようにしてもらいたい。

また、人と人との関わりを大切にもらえるような学校づくりも必要と思う。人それぞれ得意分野があると思うので、学力が満たない子も幅広く受け入れることができるような、入試の在り方なども検討してもらいたいと感じた。

委員

3校を1校となれば高校受験の時に生徒の受け皿が少なくなると思ったが、県と調整すると聞き安心した。学校に入ってからコミュニケーション力をつけてほしいので、交流の場をこれまでとは違う形で作っていただきたい。また、交通利便性については高い方がよい。

教育次長

様々な貴重な御意見を頂戴し感謝申し上げます。今回の答申案は、これまでの皆さんの御意見の中で、前回の会議で3校を1校にというような踏み込んだ御発言もあったことを踏まえて作った次第である。

前回、市立高等学校の目指す方向性についても触れてはいたが、これをもう少し踏み込んで、御議論いただいた方が良かったのではないかと反省もある。今からでも遅くはないので、3校を1校にするならこういう方向で目指してはどうかということも御議論いただいて、先ほどまでの御意見も踏まえて、答申に盛り込んでいきたいと思っている。

1校についての話が先ほどから出ているが、県は第4学区全体の学級数の答えを持っているので、姫路市が市立高等学校を何学級にするかによって、県立高等学校が何学級になるかが決まってくるのだと思う。そのため、市が市立高等学校を何校にするのかを先に言わないことには、県も、県立高等学校を何校にするか決めることができないという状況もおそらくあるのだろうと思う。県との調整も進めていくが、市が市立高等学校を何校にするのかを明確に示していかないことには、県との交渉もなかなか前に進んでいかないという事実があるので、そこは御理解いただきたい。

委員

本校には、かなり学力の高い運動部の生徒がいる。部活動をしたいという理由で本校へ進学したようだ。志望校を決める際の視点は学力だけになりがちだが、魅力やメ

メッセージ性をしっかりと打ち出して方向性をはっきり出していくことが必要であると思う。私的な考えだが、市立高等学校は様々な企業や行政とのつながりがあることから、明確なビジョンを持つことで多様な教育活動が展開できるのではないだろうか。そうすることで、学力以外の視点で入学を考える生徒が出てくるような学校の方向性もうまく打ち出せたらと思っている。

また、市立高等学校なので、地元を愛し、地元で活躍する生徒を育てていきたいと思っている。自分の住んでいる地区は過疎化が進んでいるが、自治会の方々との活動の中で地域の魅力やこれまでにない学びも色々勉強させてもらっている。そのような社会構成があることを子供たちにしっかり伝えていくということも教育機関として大切なことなので、そういった視点も盛り込んでもらいたいという思いがある。

教育長

もし市立3校が1校になるとしたら、とても大きなことだと受け止めている。それぞれの立場から様々な御意見をいただいたが、10年後を予測して考えたものが、20年後にはニーズが変わっているかもしれない。現在は、ICTが特色と言っているが、それが当たり前の時代になる可能性もある。そのため、20～30年後のことは確約できないが、先ほどいただいた御意見を参考にしながら、現時点で前向きに期待が持てる答申案にしていきたいと思っている。

回数自体もあまり多くない中で、貴重な御意見をいただいていることを委員の皆様にはこの場を借りて改めて感謝申し上げます。もし校数を減らしていくのであれば、県との連携もしっかりとりつつ、それによって子供たちの不利益にならないように、この第4学区の子供たちの進学先という視点も持ちながら、県と調整を進めて参りたいと考えている。

会長

事務局の方で御意見を取り入れていただき、特に1校にする場合の学校像を分かりやすくし、充実したものにしていきたい。

本日の議事はこれまでとする。

議事を事務局にお返しする。

5 連絡事項

事務局

次回、第5回審議会は2月22日（火）14時30分からを予定している。

事務局

6 閉会

以上で本日の審議会を終了する。